

枠を越えて⑤ 商社の原料ビジネス

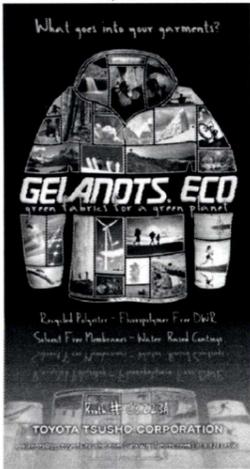
豊田通商 繊維製品部 テキスタイルグループ

進化する「ゼラノッツ」

加工した素材で、防水性、透湿性、撥水性などに高い機能を発揮する。前期は、数量こそ横ばいだったが、売上高は10%増収の30数億円に達した。

「ゼラノッツ・エコ」は07年から販売開始。再生ポリエステル糸を使い、非フッ素系撥水加工など、環境対応に評価が高い。

「ゼラノッツ・エコ」は07年から販売開始。再生ポリエステル糸を使い、非フッ素系撥水加工など、環境対応に評価が高い。



「ゼラノッツ・エコ」は07年から販売開始。再生ポリエステル糸を使い、非フッ素系撥水加工など、環境対応に評価が高い。

今期も透湿性を高めた新素材を投入した。ハイエンド素材の透湿性能を示す指標は、1平方メートルあたり24時間当たり1リットル以上を確保する。再生ポリエステル糸を使用する環境に配慮した「ゼラノッツ・エコ」が、コシやラミネート加工素材部分を改良し、裏地を必要とすることで全体を「2.5層」に薄くし、吸汗性を加えた。

「ゼラノッツ」は世界的な高機能素材は、世界的に市場が失速している。ゼラノッツはトップの商品開発で差別化に取組んでいる。黒字化を目指し、18ラインへの増設も視野に入れている。

蘇州に新縫製工場

百貨店アパレル向けに

【上海支局】八木通商は12ラインのフル稼働体制にする。中国には3工場があるが、セレクトシリングス(東京都港区)と共同出資で江蘇省蘇州市に独自の布帛縫製工場を設立した。5月末から6ラインで稼働を始める。来年春節連休明けに300万が、八木通商が5%、マッコニーが45%をそれぞれ出資した。董事長には八木通商の城谷証執行役員・中国総代理表が、総経理にはマッコニーの曾藝文社長が就いた。フル稼働体制では従業員450人、本縫いマシン300台、月産6・4



従業員平均年齢は25歳。8割が外地からの出稼ぎだ。



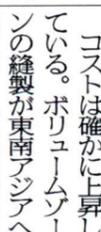
曾藝文氏

高級アパレル縫製 中国沿海部が最適

マッコニーHHD曾社長

【上海支局】中国沿海部のアパレル縫製事業について、マッコニー

イルディングス社長で蘇州八木馬可尼時装総経理の曾藝文氏に聞いた。マッコニーは従業員1200人、マシン600台規模の布帛縫製工場、蘇州馬可尼製衣を持つ。曾氏は蘇州生まれの香港育ち。現在は日本国籍を取



斎藤社長

「海外販売比率20%に」

ダイワボウノイの斎藤社長は「海外販売比率を20%に高めることを目指している。海外販売比率を20%に高めることを目指している。海外販売比率を20%に高めることを目指している。

日本絨毯株式会社
大阪府堺市西区築港浜寺西町8番12
TEL 072 (268) 0020
FAX 072 (268) 0025
http://www.japancarpet.com
カーペット総合メーカー

伊藤忠・無農薬綿花支援 国連承認の取り組み

伊藤忠商事とクルックの共同事業「プレオカニックコットンプロジェクト」(POCC)が国連開発計画(UNDP)主導の「リネス」行動要請(BCTA)の取り組みとして承認された。伊藤忠はこれにより、POCCの

伊藤忠商事とクルックの共同事業「プレオカニックコットンプロジェクト」(POCC)が国連開発計画(UNDP)主導の「リネス」行動要請(BCTA)の取り組みとして承認された。伊藤忠はこれにより、POCCの

伊藤忠商事とクルックの共同事業「プレオカニックコットンプロジェクト」(POCC)が国連開発計画(UNDP)主導の「リネス」行動要請(BCTA)の取り組みとして承認された。伊藤忠はこれにより、POCCの

伊藤忠商事とクルックの共同事業「プレオカニックコットンプロジェクト」(POCC)が国連開発計画(UNDP)主導の「リネス」行動要請(BCTA)の取り組みとして承認された。伊藤忠はこれにより、POCCの

伊藤忠商事とクルックの共同事業「プレオカニックコットンプロジェクト」(POCC)が国連開発計画(UNDP)主導の「リネス」行動要請(BCTA)の取り組みとして承認された。伊藤忠はこれにより、POCCの

伊藤忠商事とクルックの共同事業「プレオカニックコットンプロジェクト」(POCC)が国連開発計画(UNDP)主導の「リネス」行動要請(BCTA)の取り組みとして承認された。伊藤忠はこれにより、POCCの

伊藤忠商事とクルックの共同事業「プレオカニックコットンプロジェクト」(POCC)が国連開発計画(UNDP)主導の「リネス」行動要請(BCTA)の取り組みとして承認された。伊藤忠はこれにより、POCCの



伊和野氏

「同じ欧州」問い合わせに対する各々の対応が面白い」と藤田さん。イタリヤ南部は「月曜日の夕方までなら対応する」との一言のみ。急の問いに「17時過ぎに連絡が届いた。文化・風土・価値観の多様性を実感した3年数カ月だった。

「同じ欧州」問い合わせに対する各々の対応が面白い」と藤田さん。イタリヤ南部は「月曜日の夕方までなら対応する」との一言のみ。急の問いに「17時過ぎに連絡が届いた。文化・風土・価値観の多様性を実感した3年数カ月だった。